

令和4年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立東出雲中学校）

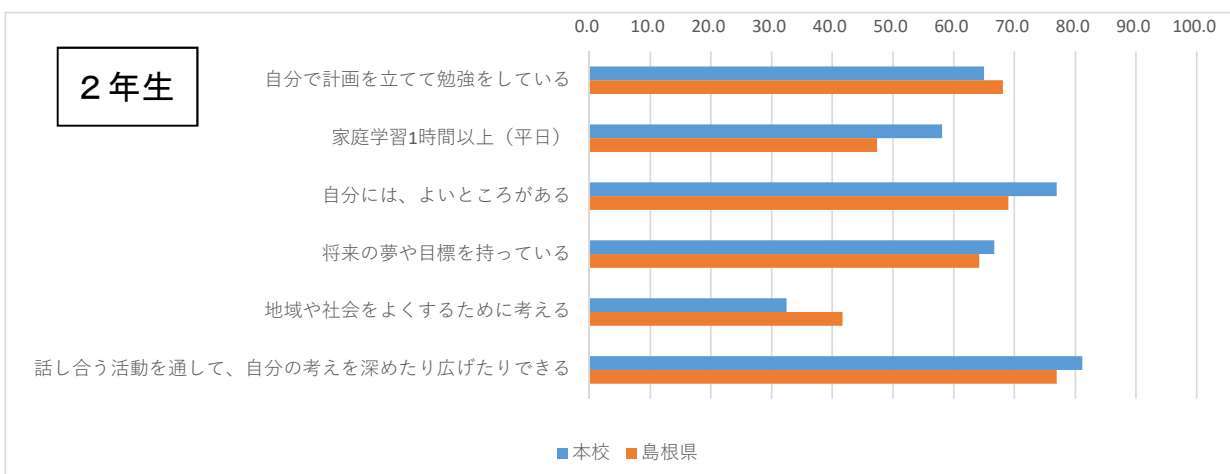
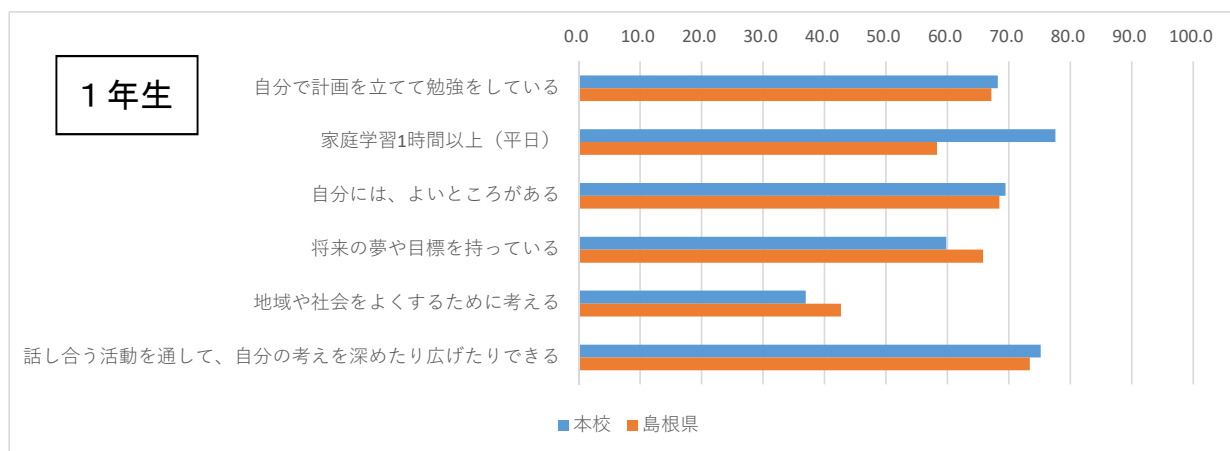
(1)学力調査結果から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

1 年 国 語	○話合いの内容を聞き取ることや、文章の読解に関する問題は、県の正答率を上回る。 ●文章を書く問題は県正答率を3.6～10.5ポイント下回る。 ●語句の問題は、目標値には近いものの県の正答率に届かないものがある。	2 年 国 語	○全体として県正答率を上回る。 ●「書くこと」に関する問題は、県正答率を0.8～4.8ポイント下回る。 ●文法・語句の問題は目標値に近いものもあるが、県正答率に届かないものもある。
1 年 数 学	○全国平均や県平均を上回るものが多く、おおむね良好といえる。 ●1次式の減法が、全国平均－8ポイントと低い。 ●方程式の立式、文字式の立式は、全国・県を上回るものの、目標値の約半分の正答率である。	2 年 数 学	○知識・理解の問題では、全国平均や県平均を上回っており、おおむね良好といえる。 ●分数の計算の正答率が低い。 ●説明を読み、問われていることは何かを答える問題の正答率が低い。
1 年 英 語	○日常的な対話における表現が身に付いており、リスニングや読み取りに関する問いへの正答率につながっている。 ●テーマに沿ってまとめた量の文を書くことに課題がある。 ●基本的な語彙についての知識はあるが、文の中で適切に活用する力が弱い。	2 年 英 語	○長文を読み取る問題は、県正答率とほぼ同程度の正答率である。 ●場面に応じた英文や、自分自身についてまとまりのある英文を書くことに課題がある。 ●相手に伝わるように英文を書く問題への無回答が多い。

(2)生活意識調査から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

1 年	○8割近くの生徒が家庭学習を1時間以上行っており、そのうち2時間以上行う生徒の割合は、県平均の2倍を超える。復習と苦手教科克服をめざして習慣化させた毎日の自学ノートの取組が、成果を上げていると考えられる。 ●地域の行事に参加している生徒、地域や社会をよくするために考える生徒の割合が、県平均から大きく下回る。 ●新聞や図書等を使って自ら学ぶ意欲や関心が低い。	2 年	○「自分が認められていると思う」、また「自分には、よいところがある」と感じている生徒の割合が、県平均より高い。普段から「尊重」を重視した取組の成果と考えられる。 ●地域や社会をよくするために考える生徒の割合が低い。 ●睡眠時間、新聞の記事を読むこと、勉強への図書館利用については、昨年から継続して課題である。
--------	---	--------	--

(3)意識調査(教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 1年生 157名 2年生 117名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。